統 合 講 義 （ 腫 瘍 学 ）

【単位数：１単位，授業 15 コマ（定期試験含まず）】

１　科目責任者

早稲田勝久　教授（医学教育センター）

科目担当者

笠井謙次　教授（病理学）

２　教育目標

（１）　ねらい（Ⅰ-13-b，Ⅲ-３-b，Ⅲ-５-c，Ⅲ-７-c，Ⅲ-９-c，Ⅲ-７-c，Ⅴ-４-c）

① コアコンピテンスである「医学知識と科学的探究心」を理解するため，特に腫瘍の病因，病態につながる基礎医学的な要素，社会医学的背景を学び，さらに腫瘍の症候と適切な治療選択の概要，チーム医療を理解する。

② 腫瘍の基礎医学，社会医学から臨床医学までを俯瞰的に理解する。

（２）　学修目標

① 腫瘍の定義・用語，病態を説明できる。
② 癌の原因や遺伝子変化，発癌機構を説明できる。
③ 癌検診制度や地域医療構想を概説できる。
④ 腫瘍の内視鏡診断・内視鏡治療を概説できる。
⑤ 腫瘍の手術療法を概説できる。
⑥ 腫瘍の放射線診断・療法を概説できる。
⑦ 腫瘍の薬物療法（殺細胞性抗癌薬，分子標的薬，免疫チェックポイント阻害剤）を概説できる。
⑧ 腫瘍の診察におけるチーム医療を概説できる。
⑨ 腫瘍における緩和ケアを概説できる。
⑩ 腫瘍の診察における生命倫理を概説できる。
⑪ 腫瘍性疾患をもつ患者の置かれている状況を認識できる。

３　成績の判定・評価

（１）　総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
定期試験	○	100％	多肢選択問題を原則とする。一部記述式問題を含む場合がある。
態度	○	—	受講態度が著しく不良の場合は，10点を上限として減点をする。

出席：　定期試験を受験するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

（２）　合格基準

評価対象の合計が60％以上（又は60点以上）で合格とする。

（３）　再試験・再評価の方法

上記（2）で総合成績が60％未満の場合は，再試験を実施する。再試験は多肢選択問題を原則とするが，一部記述式問題を含む場合がある。再試験の60％以上を合格とする。

（４）　課題（試験やレポート）へのフィードバック

定期試験の成績の総括を学内メールで通知する。

これにより，理解が不十分な項目について再確認を促すとともに，定期試験が不合格となった者は再試験に備えること。

4　教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
レジュメ配付			

5　参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
入門腫瘍内科学	日本臨床腫瘍学会編集	南江堂	臨床腫瘍学の入門書。医学部生に必要な臨床腫瘍学の知識が，わかりやすくまとめられている。

6　準備学習（予習・復習）

レジュメの復習を行うこと（1日あたり約1時間）。

7　授業計画

（1）　講義の方法

基本的に大教室での知識伝達型講義であるが，一部講義中に講師との質疑応答を導入する。
Team-based learning（TBL）の進め方などは8月 31 日（月）2限の講義中に説明する。
症例（9月1(火)3限症例提示）に基づくTBLを9月2日(水)5限に実施する。

（2）　講義の内容

腫瘍の基礎医学的知識の整理と，臨床現場での癌患者の診断治療の流れを想定して講義を進める。